

会 議 録（発言要旨）				
会 議 名	第2次三豊市総合計画審議会（第8回）			
日 時	平成31年2月22日（金） 13時30分～15時00分			
会 場	三豊市危機管理センター202 会議室			
出 席 委 員	原 真志 会長	平井 俊広 委員	今川 宗一郎委員	横山昌太郎 委員
	田井 清 委員	眞鍋有紀子 委員	矢野 康江 委員	中村 和良 委員
	橋本 純子 委員	黒田日出子 委員		
欠 席 委 員	正田茂義 副会長	則久 郁代 委員	新延 修 委員	増田 博志 委員
	砂取 とき 委員			
事 務 局	綾 章臣 政策部長	石原一也 田園都市推進課長	小野 晃照 主任	森 郁美 主任主事
傍 聴 者	なし			
議 題	(1) 三豊市第2次総合計画概要版の作成について			
議 事 の 経 過 お よ び 発 言 の 要 旨	事務局	◎審議会委員の出欠状況について ◎会議の公開について ◎三豊市議会総合計画調査特別委員会の設置について		
	原会長	◎あいさつ ◎公開方法について確認 議事1「三豊市第2次総合計画概要版の作成」について、事務局より説明を願う。		
	事務局	三豊市第2次総合計画概要版の作成について説明		
	横山委員	もう少し具体的に書いても良いのではないか。 体系図等は入らないのか。 もっと見てみたいと思わせるために数値目標等をいくつか載せてみるとか。 三豊市のイメージパンフみたいになってしまっていないか。		
	事務局	あまり難しいことを書きすぎると、行政のまちづくりに関する冊子になってしまわないか。 後半部分が「総合計画とは」について書いている。		

	中村委員	一番大事な人口の維持について全く触れていないのはどうか。 人口減少・人口目標について書いておけば、いろんな事業も進めやすいのではないか。
	事務局	市民にとっては人口減少自体が身近でない。
	平井委員	総合計画はどういう形で配られるのか。
	事務局	本編は配布しない。 概要版を配って、HP等で本編を見てもらう。
	平井委員	審議会の委員なら、この概要版を見て本編へと進みやすいかもしれないが、一般の人にはどうか。 少し簡略化しすぎているか。
	原会長	本編とのつながりがもう少しほしいということか。
	眞鍋委員	興味がない方に視点を合わせすぎている。 現状把握によって、危機感をあおることもできるし、これをすれば明るい未来が待っているという風に前向きにもできる。 関心の高いAIにしても、その先の未来が伝わっていない。 現状把握とその課題の解決方法、先の素敵な未来がワンセット。 経済産業省の地域未来牽引企業では、みとよは県内でもシェアが大きい。 すごく頑張っている企業が多いということ。 具体的な話をするのは、暗いことではない。
	事務局	市民は、まちづくりは行政の仕事だと思っているのではないかとこのところから、近づいてお伝えしないと受け取ってもらえないのではないかと考えていた。 興味のない方も少し頑張ればついてこられるぐらいのレベルにあげてつくるのも良いかもしれない。 課題と将来の話をあまりしていないので、それは盛り込んでいければ。

	中村委員	人が減ることはみんな知っている。グラフ必要ないのでは。危機感をあおるだけにもなりかねない。 減らないために何をやっていくかを書かないと。 「三豊市では、人口減少と高齢化が進んでいます」この一文でわかる。
	事務局	マイナス思考につながっては意味がないと思う。
	原会長	この冊子が誰をターゲットにするのか。 本編との関係と役割分担。 この2つ以外にはないのか。中間媒体はないのか。 ページ数に都合があるので、スクラップアンドビルドにも限りがある。 でもご指摘の点については、解決したいということであれば、この冊子でできることできないことを整理しなければならない。 もっと総合計画について丁寧に連載していくとか、視点の高い人に合わせたものも提示するとか。
	事務局	違う冊子をつくることを考えていない。 広報、ホームページ、Facebook等での発信は可能である。 いろんな人の目に触れる機会があるといいと思う。
	原会長	冊子に関する内容の調整はページの限りですとして、計画内容を丁寧に発信していく媒体の検討が必要。
	横山委員	わかりやすくすることと興味を引くというのは、別次元の話。 分かりやすくすれば、皆が興味を持つかと言えばそうではない。 やはり興味を引くポイントは必要でないか。数値目標など。 もっと市役所がやるぞ！というところを全面に出していてもいいのでは。
	眞鍋委員	マニフェストのようなイメージ。

	横山委員	完成していることなので、もう変えようもないし、この計画を市役所が全力でしていくんだと押し出した方が、市民から次こんなことをしてほしいなどの意見も出るのでは。 市民が応援したくなるような概要版に。
	橋本委員	小中高生でも高齢の方でも理解できる。 三豊の良さを再認識できる。 数値目標を入れると、既存の行政資料になってしまうのでは。 広報を活用して、段階的に内容と担当者をお伝えして親近感を持ってもらうのはどうか。
	矢野委員	広報に担当者の顔が出るのは良いと思う。
	眞鍋委員	前回の総合計画での失敗があるのか。
	事務局	前回からの比較ということではないが、参考にして他自治体の総合計画冊子は行政がつくったかっちりしたもので、発展的な話が載ってないことから興味が湧かなかった。 現状、めざす将来、そのための手段を紐づけた冊子にしていきたい。 写真等によって目を引き、気を引き、本編への導入となるような冊子にしていきたい。
	今川委員	おもしろい冊子、チャレンジの冊子になっている。 行政として特に頑張っていきたいことが 1 ページぐらいあって、詳しくは広報や本編でというような感じ。予告ページのような。
	横山委員	数値目標は、説得力がある。堅いものではない。
	橋本委員	今は、縦割り行政になっているので、広報の連載で課をまたいでつながっていくのも良い。 田園都市推進課だけでなく、担当課の想いを市民にぶつけてほしい。

	原会長	関係課を集めた座談会などもいい。
	眞鍋委員	官民の壁はなくなりつつある。 民間主導で課の垣根を超えた取り組みが進んでいる。 三豊市の県内での立ち位置、どんな人がいて、どんな強みがあって、力を発揮したらどんな未来が実現するのかに厳しくコミットする機会も必要かもしれない。 実際に、想いやビジョンを持った担当者がいる。 それを伝えてこない行政が悪いとするのは市民の甘え。 この現状が、思い切ることを踏み留めているのであれば、市民向け、企業向け、子ども向けに作り分けて、内容の厳しさも変えていけばいいのでは。 例えば、企業版は厳しめの内容にするとか。
	事務局	みんなに対する冊子なので、ターゲットがわかりづらいのは事実。 でもターゲットによって、言いたいことも変わってくる。内容のボリューム感も変わる。 ただ、全てをつくるのは難しい。
	眞鍋委員	もっと市民に要求していても良い。 市民の理解がないから、せっかくのビジョンが実現できていない現状がある。
	事務局	市民側の意見を聞く機会は、これまでたくさんあった。 でも行政から伝えたいことを話す機会はなかった。 冊子以外にも積極的なアプローチが必要だと思う。 行政と市民の距離感を縮めるような意見交換会や座談会などもいい。
	原会長	冊子、広報の連載、そこからの座談会というのでもいい。
	平井委員	広報の連載では、計画の進捗も載せるといい。 計画を周知したことだけで終わらないように。
	原会長	計画を公開して反応が返ってきて、PDCAのループを流す

		ことで形になる。
	眞鍋委員	市民や企業に対してしてもらいたいことを、市がイニシアチブをとって伝えてもいいのではないかな。
	中村委員	市民を巻き込めるようにならないと。 行政が一方的にするのではひとつにならない。
	橋本委員	市民がもっと考えたいことについての勉強会が開けるといい。 自主的に市民も動いて、振り返っていくことが必要。
	原会長	市民が主体的に動く仕組みが必要ということ。 全く関心のなかった人に見てもらえる冊子にはなっている。 若い人へのアプローチとして動画・インスタという手で本編へ誘導する。 授業の教材としても使えると良い。 つくって終わりではなく、いろんな立場の人に揉んでもらうこと。
	黒田委員	読みやすくて良い。 大きな余白が、立ち止まって考える時間になる。 どの言葉も心に入ってくる。 押しつけがましくないので、考えるための教材になるような気がする。 県外の友人にも市の魅力を伝えられる。
	横山委員	市民の人を巻き込むというのは、この冊子を見ていいねと思ってくれることなのか、議論を巻き起こすことなのか。 市民は、この冊子いいね、じゃあ後はよろしくという風になってしまうのではないかな。 極端ではあるが、企業にあれやってこれやってと言って、こんなことできないというような議論を起こすぐらいでないと。
	今川委員	若い世代に知ってもらいたいということであれば、この一冊で完結するのが良いのでは。

	横山委員	今生きる大人たちは、この計画をもとに立ち向かう、次の時代は君たちの番だ。 身近な課題を伝えて、一緒に取り組んでいかなければ、自分たちのまちも危うくなるということを一冊に書くのが良いと思う。 アンケートのフィードバックもしてあげると良い。
	田井委員	空き家に関しては、市も手が出せないと聞いた。移住者に提供できるような仕組みがあれば良い。 市でも外国人移住の窓口ができてくるのでは。 A I も早めに導入して行ってほしい。 広報での情報発信は良いと思う。
	事務局	今日はいろんなご意見があった。 この冊子だけで全てを伝えるのは限界があるので、つくって終わりにならないよう定期的に発信をしていきたい。 意見を交換する機会も設けていきたい。 概要版は、情報過多にならないよう本編への呼び水となるような冊子にしていく。
	原会長	それでは他にご意見もないので、本日の会議は以上とする。